催し物スケジュール 1月～2月

※この予定表は予告なしに変更になる場合がありますので、事前にお確かめください。入場料は前売料金。

豊橋文化　2021年12月発行
市内文化団体主催および豊橋文化振興財団が後援する催し物を中心に掲載しています。掲載のご希望は、問合先までご連絡ください。

1月

（新型コロナウイルス感染症の影響により、変更・中止等の可能性があります。事前にご確認くださいますようお願いいたします。）

4日(火)
凧展 …… 9日(日)まで
時間●9時～17時　場所●豊橋市民文化会館　入場料●無料
内容●江戸より伝わる豊橋凧の展示

5日(水)
冬休み伝統文化こども教室【茶道の部】 ※事前予約制
時間●午前の部:10時～12時　午後の部:13時～15時　参加費●500円
第3回東三河新春書展 …… 9日(日)まで
時間●9時～17時(最終日は16時まで)　場所●豊橋市美術博物館第1～3展示室
入場料●無料　内容●東三河在住の書家と東三河地域高校生の作品展示

6日(木)
裏千家六日会初釜
時間●10時～　場所●三の丸会館　会費●1,000円　担当●千賀宗司

9日(日)
伊藤民謡会創立51周年チャリティー民謡大会
時間●10時～　場所●豊橋市公会堂　入場料●無料
内容●教場対抗合唱コンクール、伊藤陽扇ショーほか
茶道クラブ初釜 ※事前予約制
時間●9時30分～　場所●三の丸会館　会費●一般:600円／会員500円
担当●煎茶売茶流

12日(水)
愛知県高等学校文化連盟美術・工芸専門部 東三河支部展 …… 16日(日)まで
時間●9時～17時　場所●豊橋市美術博物館　入場料●無料
内容●東三河地区の高等学校美術部の合同作品展

16日(日)
日曜短歌会
時間●13時30分～　場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室

18日(火)
桜丘高等学校音楽科 第57回卒業演奏会
時間●18時30分～　場所●豊橋市民文化会館ホール　入場料●無料
内容●高校3年生の声楽、ピアノ、管楽器の演奏　音楽科生徒全員の合唱、合奏

19日(水)
水曜短歌会
時間●13時30分～　場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室

22日(土)
なごやか～なこんさあと2022
時間●13時～　場所●穂の国とよはし芸術劇場プラット アートスペース
入場料●無料　内容●ピアノ、デュオ、2台のピアノ、弦楽器、打楽器の演奏

25日(火)
第14回千切会会員作品展 …… 30日(日)まで
時間●9時～　場所●豊橋市美術博物館　入場料●無料
内容●書道、写真、絵画、陶芸、折紙、木工細工など約60点の作品展示

28日(金)
新春文化団体交流会
時間●17時～　場所●ホテルアークリッシュ豊橋 ガーデンサイト5階 ザ・グレイス
会費●8,000円

30日(日)
西村能舞台稽古
時間●14時～16時　場所●西村能舞台(豊橋上伝馬町)　お問合せ●080-1063-3855

2月

1日(火)
市民展(写真・書道) …… 6日(日)まで
時間●9時～17時　場所●豊橋市美術博物館　入場料●無料
内容●東三河を対象とした美術公募展

5日(土)
第12回とよはし音楽祭
時間●13時開演(12時開場)　場所●豊橋市民文化会館ホール　入場料●無料
内容●愛知県発全国に向けてこころの病を抱える方を対象とした「チャレンジド・ミュージックコンテスト」の発表

6日(日)
坂東眞理子チャリティ講演会
時間●14時～　場所●emキャンパススタジオ5階(未定)※会員以外はオンライン講演会(2,000円)
茶道クラブ月例茶会 ※事前予約制
時間●10時～　場所●三の丸会館　会費●一般:600円／会員:500円
担当●南坊流
裏千家六日会月釜
時間●10時～　場所●三の丸会館　会費●800円　担当●寺部宗葉
西村能舞台稽古
時間●14時～16時　場所●西村能舞台(豊橋上伝馬町)　お問合せ●080-1063-3855

8日(火)
市民展(絵画・彫刻・デザイン) …… 13日(日)まで
時間●9時～17時　場所●豊橋市美術博物館　入場料●無料
内容●東三河を対象とした美術公募展

13日(日)
気まぐれコンサート
時間●14時～　場所●ロワジールホテル1階　入場料●6,000円
内容●ヴァイオリンとピアノのコンサート

15日(火)
第39回財団加盟美術団体選抜展 …… 20日(日)まで
時間●9時～17時(最終日は16時まで)
場所●豊橋市美術博物館第1～3展示室　入場料●無料
内容●豊橋文化振興財団に加盟する写真並びに書道の団体による合同展覧会

16日(水)
水曜短歌会
時間●13時30分～　場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室

20日(日)
日曜短歌会
時間●9時～17時　場所●豊橋市民文化会館2階第7会議室

豊橋の文化活動―アーカイブス⑩

～機関紙「豊橋文化」の変遷～＜後編＞

― 「豊橋文化ニュース」から「豊橋文化」へ ―

豊橋文化協会の機関紙は、昭和56年5月1日に発行された通巻1250号からは名称を「豊橋文化ニュース」から「豊橋文化」に戻しています。その時の〈新風〉には当時会長の森泰樹氏が「改題にあたって」と題して次のような記事も掲載しています。

“「豊橋文化ニュース」も号を重ねて1250号になった。30余年間この地方の文化の担い手として充分にその職責を果して来たわけである。気候も漸く春めいてきた。野も山も新緑でおおわれて、何かほのぼのとした力感が体のどこからか溢れてくるこの頃である。(中略)　…文化ニュースも思い切って装いをかえてみたらどうだろうと思うのである。きっと今迄気もつかなかった新しい創造が或いは生れてくるかも知れない。幸い美術博物館から山口君(山口源吾)というベテランを得た機会に題も、もう一度以前の「豊橋文化」に戻し、組み方も全部一新してみたらどうだろう。この種の刊行物はどうしても地味になり勝ちであるが、私は軽薄に堕しない程度に、なるべく軽やかで親しみ易い編集にしたいと思っている。そして新しい企画として市民文化会館を起点とした地区文化を掘りおこしてみたいと思うのである。いうなれば文化の草の根運動にとりくみたいと思っている。新聞でも一面の下一段の短評欄はいわば新聞の臍であり、又、人の着物の帯に当るところで、このしめ具合で紙面全体が締りもし、またゆるみもするものである。朝日の「天声人語」毎日の「余録」そして中日の「中日春秋」など皆その社の第一級の腕ききの記者が担当している。殊に白血病で夭折した朝日の深代惇郎君などは近来にない名コラムニストとして名声が高い。それにつけて思い出されるのは朝日の「天声人語」を戦前担当していた釈瓢斎という名人のことである。この人の文章は簡にして鋭く、人の肺腑をつく名文であったが、必ず末尾に世間を諷刺した俳句を一句つけていた。この一句が中々味わい深く山葵のきいたもので全文をひきしめるに充分な効果があった。(中略)　…さて我が「鶏鳴」がどれだけ皆の胸をうつか、私も読者と共に大いに楽しみにしているところである。”

― 「豊橋文化」から「プラットニュース」へ ―

以後、「豊橋文化」は2013（平成25）年3月15日号（通巻第1870号）まで続けられ、地元の様々な文化活動を紹介してきましたが、穂の国芸術劇場PLATが開館し、4月から隔月発行の新しい広報誌「プラットニュース」に引き継ぐことになり、「豊橋文化」は終刊となりました。「プラットニュース」は、都会的でオシャレな装丁で、その内容もアソシエイト・アーティストの平田満氏や芸術文化アドバイザーの桑原裕子氏をはじめ、一流の文化人による論評などを掲載し、芸術的専門性の高い充実した内容で、魅力あふれる情報誌でした。

― 「豊橋文化団体通信」の発行、そして「豊橋文化」の復活 ―

しかしながら、地域文化活動の観点から俯瞰すると、情報不足が否めない状況で、多く市民から、より詳しい地元情報を求める声があがりました。そこできめ細かな地元文化の情報を網羅した新たな機関紙「豊橋文化団体通信」が、2015（平成27）年4月15日に誕生し、隔月で発行することになりました。この「豊橋文化団体通信」は、翌年6月15日発行のVOL.8まで続き、同年8月15日発行のVOL.9からは、名称を「豊橋文化」に戻して、現在（VOL.41）まで続けられています。

豊橋邦楽大会を開催しました。

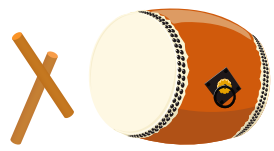
三河太鼓美友会

壁谷和子社中

伊藤民謡会

琴修会豊橋西 秋桜

11月13日(土)-14日(日)に2年ぶりとなる豊橋邦楽大会を開催いたしました。今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり予定が立ちにくい状況でしたが、少し簡素化した上で入場無料により開催し、2日間にわたり、新舞踊、民謡、箏曲、大正琴、長唄、小唄、尺八の発表を多くの来場者が楽しみました。



豊橋総合いけばな展を開催しました。

10月16日(土)-17日(日)に毎年恒例の豊橋総合いけばな展を開催しました。9流派による出色の作品を多くの方々が楽しみました。また、恒例となっている児童作品展示もあり、華道連盟の先生方の指導とともに作る児童の自由闊達な作品も会場を盛り立てました。

展示風景

児童作品展示

日本生花司松月堂古流による大作展示

文化短信

▼豊橋文化短歌会（令和三年）

十月『日曜歌会』

うすれゆく幾多の影に戦きてコロナも然り　ジンジャエール飲む　岡田宏子

餓鬼のころ字界を越え探検し歩いた小道　今朝巡る夢　西郷賢谷

赤まんま摘みて遊びし日もはるか　花チャン健坊お元気ですか　横田隆介

大の字になりて芝生に寝転びたしこの美しい夕暮れの空　真造富久代

乗れるものなら乗ってみよ　繰り返す波の挑発うけ流しをり　池田あつ子

ペットボトルの水含む度ゆりの木の天辺を見る空の青さも　岩瀬美子

朝顔の青き花々　東の窓あけて見る日々の楽しさ　河合美智子

一日に三十分以上歩く暮しぐっすり眠れて朝は快適　成瀬眞智子

十月『水曜歌会』

四歳の頃に唄った『お富さん』『玄治』を「ケンヤ」と熱唱してた　西郷賢谷

安曇野のま青な空の下でした添乗員は時刻を高く　岩瀬美子

幼い日誰と笑っていたのだろうちくわの穴に指突っこんで　内藤よし胡

ガーゼ二枚重ねて作りしブラウスを染めむと青き朝顔を摘む　河合美智子

スーパーの野菜の値など話す娘は嫁して七年主婦の手をする　室澄子

人知れず宝石箱にしまいたい十三歳の夏の日はるかに　夏目伊代子

さつきまでの話の続きをする如く三年ぶりに集いし友は　成嶌孝枝

季のさかひ定かならねば晩夏光カーテンコールに未だ応へゐる　洲淵智子

庭に濡るる蜜柑の青い小さき実に呼応している心のどこか　長谷川公代

秋彼岸改葬されし友の墓風まで染めて赤トンボ舞ふ　中島タエ子

一株の里芋掘れば親芋と子芋がぞろり「もういいよー」と　伊藤はつゑ

朱の薄き一匹のトンボ追いつきて婚姻色の群れに混じりぬ　篠田武子

寝たきりになるかもしれぬ年齢になり歩けることのありがたさ思う　成瀬眞智子

十月『日曜歌会』

ひさびさの再会の地へ急ぎゆく私の中でかんざしが揺れる　長谷川公代

蒼穹に傘を広げて青を呑む雲が集まり就活相談　伊藤はつゑ

秋桜が風に煽られ書いた文字一筆書きのａｂｃｄ　西郷賢谷

解体の現場で休む男たち投票日明けて日だまりのなか　夏目伊代子

四Ｂの芯はまろやか書く吾の筆圧弱る指にやさしき　内藤よし胡

日本語しか聞こへぬ京都産寧坂　松栄堂にお香を購う　室澄子

神木の楠の木肌を撫でながら長く祈る人それとなく待つ　岩瀬美子

カラオケにまた行こうねと友は笑むおはぎと花の手土産持ちて　河合美智子

願わくは叶えたまえと持ち上げるおもかる地蔵いやはや重い　篠田武子

二階から「眞智子さあん」とわれを呼ぶ男性の声こころ若やぐ　成瀬眞智子

十月『日曜歌会』

踏み出すも揃へる脚もままならぬあぁ橋弁慶も舞ひたる足が　岡田宏子

よさこいの簾は広びろ波打ちて永久に眠れる甥を見送る　宇佐美幸枝

公園に拾ひし木の実かポケットより幼は広げる小さな秋を　岡田米子

湯川博士の冥る菩提寺知恩院の階登る歩を確めて　横田隆介

足元を照らすライトを『遠目』にし三十秒後の未来を探る　西郷賢谷

駆け落ちは独り善がりか夢一の画「七夕」の空の短冊白紙　丹羽智子

ひとつことけじめのつきぬ朝の庭百舌の高鳴き身に沁み透る　岩瀬美子

中学の音楽部にて覚えたり「山のけむり」も「あざみの歌」も　河合美智子

立冬の井戸水ほのと温かし手桶に満たし墓石洗ふ　池田厚子

傾聴のボランティアして聞いたこと吾の生きざま磨いてくれる　成瀬眞智子

▼豊橋市民俳句会

第六四二回句会

蛇穴に入るや崖山の幽居跡　佐藤英子

はじけたる笑顔の中にふと秋思　林春美

歳時記の折目にありし秋思かな　加藤美津子

ウインドの値下げ衣料や秋燕　彦坂艶子

溜池の荒れ放題や草雲雀　大河美智子

せせらぎや谷地に溝蕎麦金平糖　篠田和代

鳥威し鴉はそばで水を飲む　藤田源一

盆栽の小鉢先立つ庭紅葉　鳥居節子

下校児の左右に別れ稲の秋　高橋良子

秋草に埋れ戦没病死者碑　河合澄子

第六四三回句会

兵の走りし冬田風の笛　彦坂艶子

稲架掛けやしゃりしゃり乾く風の音　加藤美津子

労きの身に木犀の風まとふ　佐藤英子

散薬を胸にこぼしぬ日短　大河美智子

ジョギングの夫婦遠のく冬田道　鳥居節子

ペダル漕ぐ湖北の冬田左右にして　篠田和代

茶の花や村のはづれの開拓碑　高橋良子

えさ撒くと誠に親し都鳥　藤田源一

百合鷗のせて汽水湖潮満ち来　林春美

大漁の船に乱舞の百合鷗　河合澄子

▼豊橋番傘川柳会十月句会

雑踏で暫し息抜く孤独感　尾方静子

息抜きの最中ショパン掛けて寝る　小柳津優子

息抜きはテレビ見ながらする転寝　竹本カヲル

雲眺めホットコーヒーベランダで　佐藤恭子

大家族楽しいけれど息抜きが物事は気力努力で息抜きも　佐藤文児

息抜きで心のゴミもシュレッダー　鈴木惠子

息抜きはスキーとハイク野良仕事　来本芳子

なまけ者休む言い訳探してる　池谷英子

息抜きのつもりが情に絆されて　鈴木順子

月一の贅は馴染みの美容室　本多雅子

息抜きのランチタイムは三時間　波多野律子

妻不在のどかな風に生き返る　山口タカシ

意地悪に戻って息抜きの時間　寺部水川

息抜きの隙間を狙うデルタ株　戸沢ほたる

息抜きはスキーとハイク野良仕事　須崎東山

▼本陣句会　前期分入選作品

特選

倉壁に醤の匂ひ草の花　大河美智子

秀逸

古雛の気品のうちにある愁ひ　森美里

異国語の浴衣も混じる宿場町　新濃健

佳作

紙魚ひとつつと走り出る大福帳　大竹宏二

芍薬を活けて二会の茶室かな　高橋良子

春慶に老舗の誇り菜飯膳　桑田隆行

宿場町細き瀬古道風涼し　井村弘美

秋夕焼け宿場路に立つ影法師　田中正博

開け放つ本陣広間風薫る　中尾美智子

本陣の往古をしのび茶を点てる　西谷寿